



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第 21 号 2022 年 2 月発行



このプロジェクトは5年間(2017-2022)のJICAによる技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤプリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業(有機農業及びGAP)の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. OA 農家と流通業者との連携

プロジェクトが2021年7月に実施した有機農産物の販売拡大のためのOA農家委員会/OAグループと流通業者の意見交換ワークショップを通じた活動の進捗について紹介します。

(写真) 昨年
WSでの
Organic
Houseの発表



(写真) 有機野菜・果物ジュースの販売

このワークショップに参加した流通業者の一つOrganic House(OAマーケットで仕入れた有機農産物を首都ビエンチャンのスーパーマーケット等へ卸す)は、有機農産物を使用したジュース販売のビジネスプランを参加者と共有しました。その後、OA農家委員会との話し合いや首都ビエンチャンPAFOの支援も受け、2022年2月5日から首都ビエンチャンのITECC(International Trade Exhibition and Convention Centre)OAマーケットにて、OA農家が直売する有機農産物を使用し各種ジュース(ト

マト・ニンジン・ビート・セロリ等)の販売を開始しました。当日の有機野菜・果物ジュースの販売は好評で、ITECC OAマーケットを訪れた消費者は新鮮で安全なジュースを買い求めていました。まだまだ小さな一歩ですが、OA農家と流通業者との連携を通じ、有機農産物の販売拡大のための新たな取り組みが始まっています。

2. 「防虫ネットによるトンネル栽培(物理的防除)」の設置・使用についてのOn the Job Training(OJT)を実施

当プロジェクトは2月17日(木)にカウンターパート機関である農業局クリーン農業基準センター(CASC)、ビエンチャン市農林局(PAFO)、ビエンチャン市郡農林事務所(DAFO)の3機関と協力して、防虫ネットによるトンネル栽培の設置方法、及び予防される害虫の種類や特性についてOn the Job Training(OJT)を実施しました。

今回OJTを受けた生産農家は首都ビエンチャンのタサン村で活動を行う有機農業(OA)グループです。

ラオスでは葉物野菜の生産が多く、特にアブラナ科の葉菜類・根菜類にはハムシ類による食害、また



(写真) トンネルの枠となる竹を差し込んでいる様子

コナガ類やヨトウ類、モンシロチョウなどの幼虫による食害が問題となっております。

これらの害虫による食害を防いでくれるのが「防虫ネットによるトンネル栽培」です。播種または苗を定植する段階で、畝を防虫ネットでトンネル状に覆う

ことで、外部からの侵入並びに生育途中の野菜への産卵を未然に防ぐことで食害を防ぎます。



(写真) 完成後の様子

今回実施した「防虫ネットによるトンネル栽培」については、Organic Agriculture (OA) Technical Manual としてCASCのYouTubeチャンネルで配信予定となっておりますので是非ご覧ください。



(写真) タサン OA グループ、DAFO、PAFO、CASC の皆さん

3. JICA 青年研修のスタディツアー受入

ラオスの青年リーダーを対象とした JICA 青年研修「農村振興コース」のスタディツアーが2月11日(金)~13日(日)にシェンクワン県でアレンジされました。研修員7名及び JICA ラオス事務所員2名が、同県のプロジェクトサイトを視察しました。



(写真) 研修員によるプロジェクトサイト視察の様子

2月11日(金)にシェンクワン県ペーク郡で有機農業を実践する2農家を訪問し、12日(土)早朝には同郡の OA マーケットを訪問しました。それぞれ

のサイトを視察した後、研修員と有機農家及び県郡職員との間で活発な意見交換が行われました。

OA 現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信しています。今号は首都ビエンチャン・サイタニー郡ノンテー村のカムナン・ペットムアンポン氏を取り上げます。



(写真) 自身の圃場でのカムナン・ペットムアンポン氏

カムナン氏は収入のすべてを自ら生産した有機農産物から得ている農家です。2006年に有機農業に関する研修に参加した後、祖父の体調がすぐれないのは農薬の使い過ぎが原因ではないかと考えました。試しに有機農業に取り組んでみると、祖父の体調も良くなり、病院に行かなくても済むようになりました。有機農業は農家の健康によく、ひいては消費者にとってもいいものであることを実感し、現在まで継続して有機農業に取り組んでいます。

有機農業を実践する上で一番の問題は害虫だと言います。自然由来の殺虫・忌避剤では、すべての害虫を駆除することが出来ません。チョウやガの幼虫は見つけたら捕まえて殺すことが出来ますが、ハムシ類は逃げてしまうため対応に苦労しています。自然由来の殺虫・忌避剤を適用して追い払っても、数日後にはまた戻ってきてしまいます。

乾季の今、「消費者はレタス、サイシン、ピーナート、ケール等を求めています」とカムナン氏は言います。COVID-19の影響でOAマーケットに足を運ぶ消費者が減っていることは実感していますが、0.5haの農地で「家族と消費者の健康、そして環境のことを考えて」有機農業に取り組んでいます。

発行元：JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email; cadp.lao.info2@gmail.com

Tel : +856-21 417 681



<https://www.facebook.com/jicaCADP/>

Homepage

<https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html>

